

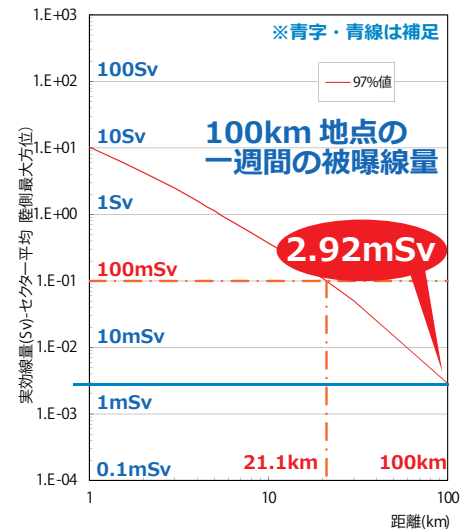
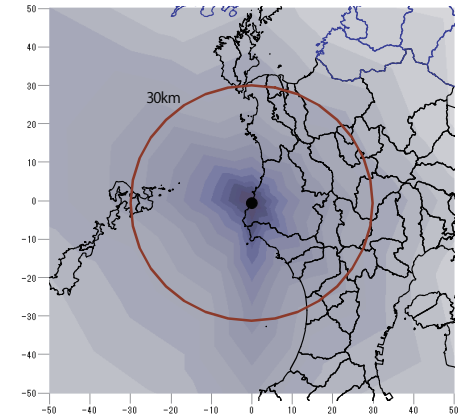
九州電力川内原発 100km 圏の 1 週間被曝線量

これからお示しするデータは原子力規制委員会が2012年12月に最終確定した、福島原発事故並の苛酷事故が起こった時に、各原発から放出される放射性物質はどう拡散し、被曝線量はどの程度になるのかをシミュレーション（放射性物質拡散シミュレーション）したものです。規制委がこのデータを作成した目的は、各原発から30km圏内では、1週間での被曝線量は100mSv（実効線量）内に納まっている、従って広域避難地域を30km圏に限定することには「科学的妥当性」があることを裏付けるためです。1週間の被曝線量100mSvとは恐れ入った数字ですが、それとは別な目的でこのデータを使ってみました。幸いに規制委の資料は、100kmまでの被曝線量グラフを添付してくれているので、100km地点での予測被曝線量を読み取ることができるのです。

川内原発の例でいうと、もしフクシマ事故並みの苛酷事故が発生すると、川内原発から21.1km地点で、100mSvの被曝線量となります。それでは100km地点ではどうかというと、2.92mSv（1年間ではありません。1週間の予測被曝線量です）となります。公衆の被曝線量1年間（52週間）の上限が1mSv、チェルノブイリ事故時の避難基準5mSv（1年間）、フクシマ事故時の避難基準20mSv（1年間）と比較しても、1週間で2.92mSvはかなり苛酷な被曝線量となります。30km圏を想定した避難計画はその実効性以前にお伽噺だということがわかります。

各原発 100km 地点の 1 週間の被曝線量予測 九州電力 川内原発

1号機 PWR 89万 kW
2号機 PWR 89万 kW



鹿児島県 9 市町 川内原発から 50km 圏内自治体の人口						
自治体名	~5km	5~10km	10~20km	20~30km	30~50km	総計
薩摩川内市	3,665	21,235	56,452	14,696	4,880	100,928
いちき串木野市		194	26,161	6,815		33,170
阿久根市		617	15,644	8,867	15	25,143
出水市			93	41,458	16,262	57,813
さつま町			280	20,055	5,330	25,665
鹿児島市				478	569,695	570,173
日置市				14,254	37,651	51,905
始良市					74,694	74,694
長島町				1,154	10,779	11,933

※平成 17 年国勢調査に関する地域メッシュ統計（財団法人日本統計協会）の人口数によるもの

【参照資料】原子力規制委員会「原子力発電所周辺地域の人口データ」より
<http://www.nsr.go.jp/activity/bousai/jinkou.html>

【参照資料】原子力規制委員会「放射性物質拡散シミュレーション」
http://www.nsr.go.jp/activity/bousai/data/kakusan_simulation1.pdf

